

令和3年度全国学力・学習状況調査 調査結果に関する
教育長コメント（8月31日）

- 新型コロナウイルス感染症の影響等により2年ぶりとなる令和3年度全国学力・学習状況調査の本道の結果については、すべての教科で全国平均に届いていない状況にあるものの、中学校においては、2教科ともに全国の平均正答率との差が縮まるなど改善の傾向が見られます。一方、小学校においては、2教科ともに全国の平均正答率との差が広がるなどの課題が見られます。
- 各市町村教育委員会及び各学校では、これまで、調査結果等を活用した検証改善サイクルの確立、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善、望ましい生活習慣の確立に向けた取組を着実に進めていただいております。更なる改善に向けて、道教委としては、小学校と中学校における連携を強化するなど、校種間の学びの連続性を踏まえた検証改善サイクルをより確かなものとして、誰一人取り残すことのない教育活動の充実に向けた一層の取組が必要であると考えています。
- 今後も、子どもたち一人一人に確かな学力を身に付けることができるよう、コロナ禍においても学びを止めない指導体制を構築しつつ、GIGAスクール構想で整備された1人1台端末などICTを効果的に活用した授業改善をはじめ、少人数学級編制の拡大や専科教員の増員によるきめ細かな指導など、学校、家庭、地域、行政が一体となった学力向上の取組を進めていく考えです。教育関係者や保護者の方々はもとより、広く道民の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。
- 最後に、新型コロナウイルス感染症の影響下において、子どもたちの学びのために日々最善を尽くされている教職員をはじめ、関係の皆様方に対し、改めて、心から敬意を表するとともに感謝申し上げます。